

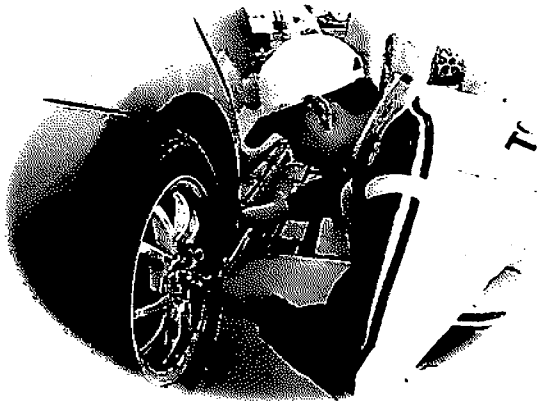
令和元年 8 月 20 日

令和 元年度 第 69 次 印旛地区研究集会
進路指導分科会提案資料

進路指導研究部研究主題

自ら進路を切り拓くキャリア教育の推進

キャリア教育および調べ学習を活用した思考力の育成
～課題対応能力とキャリアプランニング能力の育成を通して～



第一部会 佐倉市立志津中学校
森 淳一

1. 本校の概要

本校は、佐倉市の中でも商業地区・住宅地区が計画的に増設されている環境にある。生徒数は700人程度を推移しており、北総地区では1, 2を争う大規模校である。この地区は、昭和の初期から宅地化されており、今なお新たな一戸建住宅やマンションが建設されるなど新旧住民が混在している。地区の夏祭りや子供を守るパトロールなど積極的に行い、住民の意識としては『自分たちの街』という気持ちが強い。保護者の職業としては、サラリーマンが多く、また一人親家庭も増えている。保護者には、本校卒業生が多く保護者同士の繋がりが強い面も感じられる。

2. 生徒の実態から

現在学校はたいへん落ち着いた状況にある。朝読書は静かな環境で始まり、授業においては、校舎の配置が横に長いという条件の中でも、移動教室も含め2分前着席ができるように努力している姿が見られる。一方学力、理解力に関して個人差が大きいのが現状である。特徴的なのが清掃の時間である。生徒数に対して敷地面積の狭さから、3年前から3分の一の生徒が『体育班』となり、清掃の時間に長縄跳びなどの体力づくりに取り組んでいる。その結果、清掃場所の人数配置も適正となり、掃除に対する取り組みも向上している。他には挨拶がよくでき、行事などにも前向きな生徒が多い。反面、自ら情報を集めたり処理する機会が乏しく、日常の体験的な活動が少ない。これまでのキャリア教育では職業（働くということ）に関する取り組みでは、大変積極的に取り組むことができてきたが、進学や進路となると個人差が大きく、また保護者に依存する傾向も垣間見られるので、進路指導を進めていく中では、個々の実態に応じたきめ細かな（丁寧な）相談を進めていくことが重要であると考えている。

3. 学校教育目標

進んで学び、人間性豊かで、たくましく生き抜く生徒の育成。

【めざす生徒像】

○進んで学ぶ生徒

- ・授業に真剣に取り組み、自ら学ぶ生徒・・・・・・・・・・（勤勉）
- ・自分の進路に向けて努力し続ける生徒・・・・・・・・・・（進路）

○人間性豊かな生徒

- ・礼儀正しく、自他共に大切にしている生徒・・・・・・・・・・（礼儀・思いやり・共生）
- ・よく働き、人に尽くす生徒・・・・・・・・・・（勤労奉仕）

○たくましい生徒

- ・決まりやマナーを守り、目標をもって行動できる生徒・（強い意志）
- ・健康、体力づくりに励む生徒・・・・・・・・・・（健康・体力）

4. 研究主題

生徒自ら学び取る力を育てる指導はどうあるべきか。
～ 生徒指導の機能を生かした教育活動を通して ～

【研究の目標】

生徒指導の機能を生かした授業を実践し、基礎・基本の定着と、生徒自ら学びとる力の育成を図る。

【研究仮説】

生徒指導の機能を生かし、学習の基礎・基本の定着を図りつつ、自分の言葉でまとめ、表現する活動に重点を置くことで、生徒自ら学びとる力の育成が図れるであろう。

5. 本校キャリア教育の目標

本校では総合的な学習の時間の中心にキャリア教育をおいている。また、学習した内容を学校行事の中で『振り返り』という形で発表や掲示をすることで情報を共有し、自己の在り方を考えるきっかけづくりとしている。

【総合的な学習の時間の目標】

キャリア教育および調べ学習を活用した思考力の育成
～ 課題対応能力とキャリアプランニング能力の育成をとおして ～

【今年度の重点目標】

- ・情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表の仕方を身につける。
(旅行的行事・職業学習・ボランティア活動など)
- ・社会生活に必要な規範意識とマナーの体得(道徳・特別活動との系統化)
- ・図書室(図書)やPC室(インターネット)を活用した探究活動の工夫。
- ・体験をもとに自己の将来のあり方を考えることを重視する。

【キャリア教育で身につけたい力】

- ①人間関係形成・社会形成能力
他者の個性を理解する力、コミュニケーション・スキル、リーダーシップなど。
- ②自己理解・自己管理能力
自己の役割の理解、自己動機付け、忍耐力、主体的行動など
- ③課題対応能力
情報の理解・選択・処理、課題発見、計画立案、実行力など
- ④キャリアプランニング能力
学ぶこと・働くことの目的・意義の理解・生き方の多様性の理解、将来設計など

【ねらう生徒像】

- ・自ら情報を集め、取捨選択し自分の行動に役立てる生徒。
- ・体験活動から、自分の将来を考え、あるべき姿に軌道修正できる生徒。

6. 実践内容

【第1学年・・・『職業人に学ぶ』】

1. 1学年進路学習の目的

- (1) 将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。
- (2) 人として必要なマナーや言葉遣いを学び、社会人と接する体験をとおして、規範意識やマナーの向上に役立て、社会性を養う。
- (3) 職業人の話を聞くことによって、望ましい職業観・勤労観を形成し、主体的な進路選択と将来について考える。

2. 進路学習と、当日までのながれ

1	職業関心度チェック	進路学習への導入
2	夢や希望を大切にしよう	3年間の流れ確認
3	なぜ私たちは働くのだろう	
4	いろいろな職業を知ろう	
5	職業インタビュー	夏休みの課題
6	自分を見つめ、自分を知る	校内研修で展開
7	個性と職業の関係は？	
8	希望講座アンケート	第5希望まで記入
9	講座の発表、質問票記入	第1講座、第2講座まで発表
10	日常マナーの講座	
11	講座別集会①・・・名簿の確認と係決め	
12	講座別集会②・・・係の確認と質問内容の確認	質問は5つ選択
13	事前集会・・・意義とマナーの演習	
14	講座別集会③・・・リハーサル	当日の流れに沿って確認
15	職業人に学ぶ会：①講座 ②講座 ③感想記入	
16	お礼の言葉と掲示物作成	
17	マイ ハッピー ライフ プラン	進路学習のまとめ
18	総合的な学習の評価	

3. 『職業人に学ぶ会』当日のながれ

8:50～9:00	9:05～9:15	9:15～9:25	9:30～10:20		10:40～11:30	11:30～11:45
体育館移動	全体会 講師紹介	教室移動	講座 1	休憩 移動	講座 2	移動 感想記入

〈 生徒の感想から 〉

- ・ 仕事をするには責任重大だけれども、達成感があって、人の役に立てるので楽しそうだった。どの仕事も今やっている勉強をしっかりとやることや、あいさつなどのあたりまえのことが大切だということを知った。今のうちから勉強をしっかりとやって、あたりまえのことをしっかりと身につけて、信頼される人になりたいと思った。
- ・ 今からあたりまえのこと（あいさつ・時間・勉強）などを一生懸命にやっていると、将来の仕事に結びついていることがよくわかった。もちろん、資格などはあるけど、今はあたりまえのことをしっかりとできるようにになりたい。看護師でも保育士でも、人とのコミュニケーションが大切なことがよく分かった。今回の『職業人に学ぶ会』に参加して、一番大切だと思ったのは、人との信頼関係を築くことだと思った。だからこそ、私も人から信頼されるような人になって、将来、人から信頼される職業につきたいと思った。
- ・ 私が今回の『職業人に学ぶ会』で学んだことは、自分の意志の大切さです。自分がどう思うかで将来働く仕事が変わるし、自分の性格で向いている仕事も変わるということを考えさせられた一日だった。今日、話を聞かせてもらった方々は、あまり自分の時間がとれないようだけれども、仕事が楽しく、長い間仕事を続けているので、自分のメンタルやとらえ方で仕事が楽しく感じるか感じないかが大きく変わると、改めて思った。講師の先生の『自分自身がやりがいがあると感じた仕事をしたほうが良い。』という言葉がとても心に残っている。この言葉を忘れずに、自分も将来進路で悩むことがあると思うので、その時にこの言葉を思い出して、やりがいのある仕事を見つけたいと思った。
- ・ 今、僕が頑張れることは、英検などの資格をとって、仕事の視野を広げることだと思った。そして、仕事を決めるときは、好きなことや得意なことを生かせる仕事につけば、つらい時でも逃げずに仕事に励めると、今回の『職業人に学ぶ会』をとおして知ることができた。
- ・ 仕事は、やりがいのあることだと思う。自分で考えてやったことでお客さんが喜んでくれる。必要としてくれることはすごいことだと思った。楽しいこと、嬉しいことなどやりがいがあるからこそ、つらいことがあっても前向きでいられるんだと感じた。将来に向けて今頑張れることは、いつでも前向きでいること。何があっても、つらくても前向きになることで今までとは違う考えを思いついたり、人を喜ばすことができるのではないかなと思う。これからは、常に前向きな気持ちでいたい。

4. 成果と今後の課題

(1) 成果と反省

- ①進路学習を進める際のワークシートは、ここ数年積み重ねたものを使用したため、一から作成することなく学習を進めることができた。また、年々積み重ねているものなので、系統立てた学習内容になっていた。ワークシートを冊子にし、活動内容に見通しをもてるようにした。
- ②昨年度の反省を生かし、今年度は『中学校生活と進路』の副読本を『職業人に学ぶ会』に絡めて効果的に活用できた。
- ③『職業人に学ぶ会』を見据えた進路学習に、生徒の意識をもっていくのに時間が足りないように感じた。もう少し、早い時期から見通しをもって始めるべきだった。
- ④生徒から職業アンケートをとる際には、教師側からそれぞれ講師の先生方が携わっている仕事についてもっと詳しく説明できるとよかった。
- ⑤志津中学校にかかわりのある人材を講師として依頼することができたため、生徒もより興味関心を高めて臨むことができた。
- ⑥当日、全体会として12名の講師の先生を一堂に紹介ができ、案内担当の生徒も自信をもって講師の先生に話しかけ、ご案内することができた。事後も担当生徒の共通の話題となり効果的であった。

- ⑦当日、それぞれ自分の役目に責任をもって取り組むとともに、講師の先生の話真剣に聞くことができた。また、生徒なりに職業・勤労についてイメージをもてたようである。
- ⑧事前準備から当日の運営まで概ね順調に進み、目的もほぼ達成できた。しかし、インフルエンザや風邪が流行る時期であったため欠席者が多く、急きよ係生徒の代役を立てなければならない状況が多く発生してしまった。
- ⑨図書室の蔵書やパソコンからの情報収集をして、資料を作成する取り組みができなかった。

(2) 次年度への課題

- ①講師の先生は基本的に昨年度と一昨年度にお願いした先生に引き続きお願いをした。新規講師は学年会議で検討し、断られることも念頭に夏休みあたりからコンタクトをとり始めた。昨年度までの感触では、本校職員と何らかのつながりがないと、依頼は難しいようであったので、生徒の保護者や職員の家族、以前志津中に勤務されていた方など、様々なつながりを活用した。また、『地域密着型でないといけない』ということを受け、モノレールの運転士や近隣のレストランオーナー等に講師依頼を行った。
- ②PTA、市教育委員会、商工会議所等に協力を要請し、学校教育支援行事として『ゲストティーチャー』のデータベースを作成し講師確保ができると学習の幅が広がると思われる。
- ③かなり忙しい講師の方もおられるので、早めのアポとりが必須である。
- ④生徒にとってみれば、多くの選択肢があったほうが良いだろうが、今年度は12講座にした。また、フリーで動ける職員を1人確保しておかないと余裕がない。

【第2学年(1)・・・『職場体験学習』】

1. 研究仮説

- ①職場体験場所の希望調査や、事業所からの求人票を見ながら職場体験場所を自己決定させることにより、自分の特性について考えたり、将来の生き方を主体的にイメージする意欲や態度が身についていくであろう。(情報活用能力)
- ②職場で働くために必要とされる、人として身につけておかなければならない知識や技術について理解することにより、自身の生活に課題をもち、生活を改善し、将来の生活を見通して学校生活を送ろうとする態度が育まれるであろう。(将来設計能力)
- ③同じ体験場所に一緒に行く仲間や、体験を受け入れてくださった職場の方々と共に活動することにより、職業の意義や責任の大切さなどを理解するとともに、職場でのマナーや人間関係づくりの大切さが理解できるであろう。(コミュニケーション能力・人間関係形成能力)

2. 具体的方策

- ①将来の職業についての情報を知識や体験として得ることにより、職業について展望をもたせ、現在の自らの特性について確認させながら体験場所についての事前学習をさせる。
- ②人間社会はコミュニケーションで成り立っていることを考えさせ、それに伴う人間関係づくりからマナーの大切さを理解させる。『こんなときどうする?』『電話のかけ方』『訪問時のマナー』
- ③事業所担当者との事前打ち合わせ会のため、指導依頼事項を明確にしておく。
- ④職場体験で学んだことや職業について学習した情報を活用しながら新聞としてまとめさせる。

3. 学習計画

	生徒の学習活動	教師の活動	その他
8月 ↓ 10月		<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議提案 ・受入れ可能な事業所の決定。 ・事業所担当者の決定。 ・事業所へのアポイント（電話により受入確認） 	<ul style="list-style-type: none"> ・要項作成、オリエンテーション資料作成。 ・事業所一覧表作成。
11月 ↓ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験オリエンテーション（働く意義、職場体験の意義） ・職場体験希望調査 ・職場体験事業所の決定 ・マナー講座（電話のかけ方挨拶の仕方） ・事業所との事前打ち合わせ。（電話または訪問による打ち合わせ） ・自己紹介文の作成、送付 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（学年全体・学級単位） ・求人票掲示 ・体験事業所希望調査（結果確認と調整） ・体験事業所の決定・発表 ・マナー講座の実施 ・事前打ち合わせの指導 ・事前打合せ、日時確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション資料の作成 ・職場体験場所アンケート作成・集計 ・事業所へ依頼文書発送。 ・マナー講座企画 ・事前打ち合わせ一覧作成
1月 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・最終打ち合わせ日時確認 ・最終打ち合わせ【職場体験学習当日】 ・学習のまとめ、発表 ・お礼状作成 ・個人新聞作成→掲示 ・集会での発表（代表生徒） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所への挨拶【職場体験学習当日】 ・学習のまとめ・発表の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・お礼状とまとめの新聞発送 ・報告書の作成 ・まとめの新聞の掲示 ・集会発表の準備

4. 体験に向けた職員分担

職場体験実施要項作成・・・・・・・・・・学年主任、担当職員
 職場体験依頼文書作成・・・・・・・・・・担当職員
 職場体験学習ガイダンス・・・・・・・・・・3名
 求人票作成・・・・・・・・・・3名
 マナー講座・・・・・・・・・・3名
 コミュニケーション講座・・・・・・・・・・3名
 職種別会議・・・・・・・・・・担当職員
 アンケート集計および調整・・・・・・・・・・3名
 依頼文書発送・・・・・・・・・・担当職員
 新聞づくり指導・・・・・・・・・・学級担任
 お礼状、文書発送・・・・・・・・・・担当職員

5. 主な職場体験先 70事業所

官公庁（公民館・美術館・消防署）、銀行、スポーツ施設、旅行業、運輸業（鉄道）、病院
 小学校、幼稚園、保育所、飲食業、福祉施設、サービス業、商店、製造業、農業等

6. 今年度の成果

(1) 評価の観点から

○仮説①（情報活用能力）についての成果

職場からの情報（求人票）や資料を活用しながら学習することにより、求められる人物像や職業についての正しい知識を得、職業の特性や働く意義について考えることができた。

○仮説②（将来設計能力）についての成果

職業の学習をとおして、働くために必要とされる知識や技術について理解したことで、日々の学習や体験が将来の生活に役立つことを確認することができ、将来に展望をもち、主体的に考えようとする意欲や態度が身についた。

○仮説③（コミュニケーション能力・人間関係形成能力）についての成果

職場で働く人々は、一つの共通の目標や目的に向かって日々仕事をしていることを、体験をとおして理解できたと思う。特に職場では個々の能力も必要とされるが、それ以上に人と人とのコミュニケーションによって、より生産性が高められていることを体験をとおして理解させることができた。学級や男女の区別なく、同じ職場で体験するという目的から、一緒に活動したり、情報を共有することができた。

(2) キャリア教育の観点から

職場体験の実施に向けて、将来の職業や自分の適性などについて考えさせることができた。また、事前の事業所担当者との電話打ち合わせや訪問、2日間の体験をとおし、社会で働いていくために必要なコミュニケーションの大切さや、勤労の厳しさなど、将来自分自身がかかわることになるであろう課題を、体験をとおして考えることができた。

7. 次年度への課題

- ①職場体験の時期（1月中旬）が風邪やインフルエンザの流行と重なっているため、前日夜と当日朝の2回検温し、37°以上の生徒は参加させないことを確認した。そのため、当日職場体験に参加できなかった生徒は数人いた。また、不登校傾向のある生徒がメンバーに入っている場合には、事前にその生徒が希望している事業所にその旨を連絡し、了解を得た。当日参加できない生徒は学校で2日間の自習を行なった。タブレットを用いて職業調べをし、新聞にまとめた。真剣に取り組むことができ、有効であった。
 - ②当日欠席する場合は、朝保護者が学校に連絡し、待ち合わせに来ない生徒がいたら待たずに職場に向かい、事業所の方に学校から連絡が入っているかの確認をさせた。昨年度の反省もあり、念をおして確認をしておいたため、遅刻した生徒はいなかった。
 - ③体験活動の様子から、事業所では敬語を話そうと心がけたり、大きな声で挨拶しようとして一生懸命だったり、普段の学校生活では見られない生徒の一面が見られた。自分でも気づかなかった新たな一面を知る機会になった生徒も多くいた。生徒の良い面を数多くみられ、学校での指導に生かすことができた。
 - ④お礼状を読むと、どの生徒も自分の気持ちを具体的に表現することができており、2日間の体験に真剣に取り組んだことがうかがえた。しかし、まとめの新聞を見る限り、長い文章にまとめたり、丁寧な文字で書くことを苦手としている生徒もみられた。
- 職場体験は体験することに大きな意義があるという考えもあるが、職場体験の成果を生徒に具体的に認識させるために、自分の特性について事前に十分自己理解させ、課題意識をもって体験に臨ませる必要がある。
 - キャリア教育の観点からも、コミュニケーション能力を高める言語活動の活性化を図る指導は有効で、今後、教科指導や学級の時間、短学活で積極的に取り組んでいく必要がある。
 - 本校の職場体験は、受け入れ事業所のご厚意もあり地域に定着してきている。ただ、依頼する職種・事業所は千差万別であるので、生徒たちの反応を見て、精査する必要がある。

【第2学年（2）・・・『先輩に学ぶ』】

卒業式が終わってすぐに卒業生を招いて『後輩に伝えたいこと』と題して話を聞く機会を設けた。

1. 目的

身近な先輩の生活や受験体験を聞き、3年生へ向けての心構えをもたせる。

2. 成果

卒業したばかりの身近な先輩ということもあり、目を輝かせて話を聞くことができた。進路決定へ向けての新たな心構えができた。

3. 先輩の話 抜粋

- ・毎日少しでも、コツコツ勉強すること。勉強をしてわかったことは、1年生の勉強を忘れていているということ。1年の授業を思い出すのに苦労したので、春休み中に1年生の復習をしておいたほうがよい。1年や2年で習った基礎ができていないと苦労する問題があると思う。
- ・授業を大切にすること。内申点に結びつくことももちろんだが、3年生で最後の授業を終えたとき、達成感とともに先生やクラスの仲間との授業が最後だと思うと、とても寂しい気持ちになった。1回1回の授業をかみしめ授業内容を自分のものにしていけるとよい。
- ・最後となるそれぞれの行事を仲間と協力し、最高の思い出になるものにしてほしい。行事を全力で楽しむことと、学問を両立させ、自分の進みたい進路へ向けて努力してほしい。
- ・毎日10分でもいいから勉強して、いざ勉強というときに勉強できる体（感覚）をつくっておくことが大事。授業を大切にすること。特にテストのない技能教科は授業こそ大切になると思うので大切にすること。
- ・友達との絆が大切。受験は、一人では心が折れそうになることがある。そんな時、友達の励ましの言葉は力になる。クラスや学年の行事を仲間とともに頑張ってもらいたい。
- ・健康が第一、早寝・早起きを心がけて朝ご飯もしっかり食べて、規則正しい生活をして健康でなければ受験期は乗り越えられない。

（高校3年生、K先輩からの手紙）

- ・ただ偏差値の高い高校に行くことが大事なのではないことに気づいた・目標を見つけ、それに向かって頑張ることが大事なことなんだと気づかされた。中3の時期は友人関係や勉強のことでたくさん悩むと思う。でも、体育祭だって、合唱祭だって、大人になったら一生できないこと。だから「今しかできないことを、今全力で」これをモットーに過ごしてほしい。充実した年になるように祈っています。

【第3学年（1）・・・『進路説明会』】

本校では、6月と10月の2回『進路説明会』を実施している。対象は共に3年生全員と希望保護者（全学年対象）である。6月は高校の先生の話聞く会で、夏休みに行われる『高校説明会・体験入学』への参加意欲が高まった。

【第3学年（2）・・・『全校面接指導』】

本校では、3年生対象の面接指導を全校体制で実施している。そのことにより、3年生には全職員で支援していることが伝わる。また、1・2年生の職業に関する学習でのマナー講座が生きてくることを、職員も実感することができる。全校一斉で実施することで一部職員への負担も軽減され、3年生の緊張感と準備も段階的に進めることができるようになった。

【全3学年・・・学校行事をとおして】

本校では、新入生歓迎会をスタートに3大祭りと呼んで体育祭・合唱祭・大志祭（予餞会）を全校で盛り上げようとする態度が伝統として受け継がれている。これらの行事をとおして、振り返りや他学年からのメッセージに刺激され、身近な先輩の姿を自分に投影し、中学校生活をどのように送るか考える機会ととらえている。以下の各行事の生徒の作文の一部を紹介する。

【新入生歓迎会を終えて・・・1年生から上級生へ】

- ・新入生歓迎会ではありがとうございました。先輩方と早く委員会や部活動をしたいです。よろしく願います。
- ・新入生歓迎会楽しかったです。いろいろな部活があり、とてみにぎやかで、どこに入ろうか迷いました。最初は先輩たちが怖いとばかり思っていました。この歓迎会でとても優しい先輩でホッとしました。これからもよろしく願います。
- ・今回は私たち1年生のために、このような会を開いてくださり、ありがとうございました。先輩方の素晴らしい姿を見て、私もがんばろうと思えました。

【体育祭を終えて】

（実行委員長の言葉）

中学校生活最後の体育祭で実行委員長をやらせていただくことになり、様々な思いの連続でしたが、最後はとても清々しい気持ちになれました。今までの自分を振り返ると、勇気がなくクラスの代表になることさえも諦めてしまうことが多くありました。今回は、そんな自分を成長させたいという思いと、中学校生活最後の体育祭を成功させたいという思いから、委員長をやらせていただきました。そして、1年生、2年生の時には見ているだけでわからなかった、人の前で話すことの大変さや、全校生徒に立つ責任感というものも体験することもできました。

最初は、前から見ていて3年生の中には最高学年としての責任を感じていない人もいて、とても心配でした。でも、実行委員や応援団の呼びかけで、全員が体育祭への意識を高めることができました。そしてもう一つ、最初にしっかりと整列できずに、移動中におしゃべりをしていたクラスは、普段の学校生活でもまとまりのないクラスでした。やはり、日々の生活からの積み重ねがなければ、団結しなければならぬときに、1つにまとまることはできません。1年生の頃から目標とされている「あたり前」がいまだにできないのは、集団生活で暮らしていく責任が足りないからだと思います。合唱祭がだんだん近づいている今、歌を覚える前にクラスとしてのまとまりをもう一度仕切り直す良い機会だと思います。しかし、反省することばかりではありません。係の仕事をやっていなくても呼びかけをしている人や、誰よりも一番に声を出そうと努力している人、転んでしまった人に励ましの声をかける人など、人として大切なことを忘れずに体育祭に臨んでいた人もいて感動しました。そして、競技中の学年のまとまりは素晴らしく良かったと思います。1人ひとりが真剣になることで、学年としての団結力がより成長したと思いました。今回の体育祭で得たものを無駄にせず、体育祭でのまとまりを受験の雰囲気づくりへと変えていき、より良い学年へと成長できるよう頑張っていきたいです。

【合唱祭を終えて】

（歌声委員長から）

2年生になり、キャンプ、体育祭をとおしてクラスがまとまってきたところに合唱があり、更に結束が固まったクラスも多いのではないのでしょうか。クラス替えもあり、新しいメンバーでの歌練習はたいへんなこともあったのではないかと思います。今回の合唱祭本番で最高の合唱をつくりあげることができたクラス、残念ながら悔いの残る結果となってしまったクラス、様々な思いがあると思います。この合唱で感じたことや学んだこと、得たものは個人やクラスでたくさんあると思います。そのことを今後の学校生活生かし、私たち2年生が初めて主催する大志祭、3年生が旅立つ卒業式、そして来年の合唱祭に向けても全ての力が発揮できるように頑張っていきましょう。

〈個人の振り返りから〉

今年は、最初の方は大きく口を開けて歌っていなかったり、無表情で歌っていたけど、練習を重ねるうちに、自分のパートの音をうまく歌えるようになって、合唱の時間やパート練の時間が楽しくなりました。本番では、ホールいっぱいに歌を響かせることができました。これまでで一番いい演奏だと思いました。来年は優秀賞をとれるよう演奏したいです。

【大志祭を終えて】

〈1・2年生の感想から〉

- ・3年生が私たちを支えてくださったように、私たちが3年生を歌で支えられるように、今できることを精一杯届けられました。
- ・歌はあまり得意ではないけれど、下手くそのまま合唱するのは嫌だったので、朝の会、帰りの会の合唱の時間などにたくさん練習して、本番では今までで一番の歌声を響かせることができました。
- ・先輩方に今までのお礼が伝えられように、練習の時から少しの緊張感をもってみんなで楽しく頑張れたと思いました。
- ・大志祭をとおして、3年生になるという実感がわいてきました。来年、私たちのためにこれだけのことをやってくれるのかと思うと、それに相応しい人間にならないといけないと思いました。

〈3年生の感想から〉

- ・素敵な大志祭を開いていただきありがとうございました。とても楽しかったです。最上級生として志津中をリードできるように、自分の良さを生かして頑張ってください。
- ・気持ちのこもった大志祭をありがとうございました。2年生らしく、堂々としていてとてもおもしろかったです。もう少しで3年生ですね。全てのことが最後になります。残りの学校生活を全力で楽しんで、ラスト1年間で最高の思い出をつくってください。

学校行事(体験)をとおして、今の自分を振り返りなりたい自分に近づいている様子が感じられる。